

紫尾のもぐら打ち 昔ながらの伝統を継承



家庭の庭先でもぐら打ちをする子どもたち

小正月の恒例行事の「もぐら打ち」が、1月14日（水）行われました。本町では、神子区の高嶺集落と紫尾区で毎年行われています。

もぐら打ちはもぐらの被害から家を守り、無病息災、五穀豊穡を願うものです。

紫尾区の岩之上集落では、子どもたち15人が参加し、「もぐらうちやもたんか・・・」という掛け声に合わせて、竹とわらで作ったもぐら打ち棒で各家庭の庭をたたいて回りました。

鶴田中学校 竹ぼうきうまく作れたよ

ふれあい竹ぼうきづくりが、1月23日（金）鶴田中学校で行われました。これは、高齢者とふれあうことを目的として行われているもので、今年で22回目を迎えます。

今年は、21人の高齢者が参加し、指導されました。生徒たちは、材料を持参し、手伝ってもらいながら竹ぼうきを完成させました。

3年生の生徒は、「今年で3回目になるけど、なかなか難しかった。最初竹を巻くのが難しい。」と話していました。作った竹ぼうきは、町内の各小学校にも寄贈されました。



高齢者の指導を受けて竹ぼうきを作る中学生

文化財を守ろう 南方神社で放水訓練



南方神社付近の山林に放水する消防団員

鶴田区の南方神社で放水訓練が1月26日（月）行われました。これは、この日が「文化財防火デー」に定められており、それに合わせて実施されたものです。

はじめに中央公民館の防火上の安全点検等を行い、南方神社に移動し、神社の境内で宮司・消防団員・地区民・文化財保護審議会委員等が参加し、神社の歴史や失火等の対策など協議しました。

その後、神社の近くの山林から出火したとの想定のもと放水訓練が行われました。

鶴田新ごぼう 販売額 1 億円を目指して初出荷

新ごぼうの出発式が、1月14日（水）柏原の野菜集荷場で、生産者、町、農協関係者等約60人が参加し、行われました。

式では、大園米満ごぼう部会会長が「今年は、1億円の販売高を目指してがんばりたい。」とあいさつされました。

その後、関係者によるテープカットが行われ、初出荷の約600kgを載せた輸送車を見送りました。

今年は、出荷量172トン、販売額1億円を目指して4月上旬まで出荷されます。



関係者によるテープカット

鹿児島市の津曲善三さん 町内各小中学校に学校備品を寄贈



町長へ目録を贈呈されました

津曲工業株式会社代表取締役津曲善三さんから、町内各小中学校へ教材備品の寄贈がありました。これは、町制施行40周年を記念して寄贈されたもので、鶴田小学校にはデジタルビデオカメラ一式、他の学校にはビデオプロジェクターとスクリーンがそれぞれ贈られました。

12月25日（木）に、町長室で目録の贈呈が行われました。

鶴風の会 凧揚げを楽しむ

鶴田町鶴風の会による凧揚げ大会が、1月1日（木）神子橋下流の河川敷で行われ、約30人が参加し凧揚げを楽しみました。この日は、風が吹かず、会員の方々が走って凧を揚げました。それでも、鶴凧がふわっと空を舞うと集まった人たちからも歓声が上がっていました。

鶴凧の会は、青森県鶴田町との交流をきっかけに結成され、地元の竹を生かして鶴凧の製作に励んでいます。



凧揚げに参加された方々